令和８年 11 月臨時会　提案説明要旨

（はじめに）

令和８年11月関西広域連合議会臨時会の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。議員の皆様に、まずは平素のご活動、様々なお取組に敬意を表しますとともに、ご指導・ご厚情に感謝を申し上げます。

さて、昨年５月に、大阪・関西万博の機会を捉えフランス共和国イル・ド・フランス州のヴァレリー・ペクレス議長が来日されたことから、滋賀県で会談を実施しました。この際、従前からの観光分野に加え、両地域が協力する分野を拡大していくことについて合意に至りました。

これを踏まえ、先週、広域連合長としてフランスを訪問し、11月12日に、イル・ド・フランス州との間で、新たな覚書を締結いたしました。

今後、双方が産業やイノベーション、環境保全などの分野においても知見の共有や交流の進展を図り、関西の持続的な発展に寄与できるよう取組を進めてまいります。

それでは、提案理由の説明に先立ち、８月定例会以降の主な取組についてご報告します。

（広域防災の推進）

第１は、広域防災の推進です。

11月２日、事前防災から発災時の対応、復旧・復興までを一貫して担う司令塔として防災庁が発足しました。

これを受けて、関西広域連合では、防災庁との連携や、防災局等の関西への設置の働きかけ、構成府県市民に対する水、食料等の備蓄の呼びかけなどを内容とする意見表明をいたしました。

また、７月28日に発災した令和８年熊本地震につきましては、関西広域連合では、熊本県の八代市、宇土市、宇城市の３市へカウンターパート方式による支援を実施してまいりました。被災者の生活再建に必要となる支援として、住家被害認定調査等の業務を10月末まで行い、11月からは、復旧・復興に必要な応援職員の中長期派遣を主体とする支援に移行しました。

引き続き、被災地のニーズを踏まえ、構成団体・連携県全体で、復旧・復興の一助となるよう、必要な支援を継続してまいります。

このような中、10月17日及び18日に鳥取県倉吉市で開催された「ぼうさいこくたい2026in鳥取」に参加しました。「災害時の広域応援の取組」をテーマにセッションを行うとともに、屋外展示では、構成府県市の取組を紹介するパネルや大阪府のトイレカーを展示し、自治体が相互に支えあう

ことの重要性と、関西広域連合の防災・減災対策について広くPRしました。
今後も、広域防災の取組について積極的に情報発信を行い、府県市民の防災意識の向上につなげてまいります。
さらに、明日20日、関西広域応援訓練として、構成団体・連携県及び民間事業者等が参加し、物資支援に係る応援・受援の訓練を実施します。８月末、近畿地域の活断層長期評価が発表されましたが、活断層地震や、南海トラフ地震等の大規模災害への迅速かつ効果的な対応を行うためには、平時からの連携体制の強化と実践的な訓練の積み重ねが重要と考えております。防災庁とも連携を図りつつ、大規模広域災害等に対応するための取組を進めてまいります。

（広域観光・文化の振興）

第２は、広域観光・文化の振興です。
関西各地への観光周遊を促進するため、構成府県市を巡るスタンプラリーを今月から実施しております。スタンプは大阪・関西万博の際に制作した、各府県市をイメージするデザインとなっており、多くの皆様に参加を呼びかけてまいります。
また、11月12日には大阪市内において、「CBX MeetUp in KANSAI 2026」を開催いたしました。クリエイターと企業等による交流やマッチングの機会を創出し、文化芸術の持つ創造性を活かした新たな価値創出や事業化の促進に取り組んでおります。
さらに、11月14日及び15日を中心に、関西の文化施設の入館料を無料とする「関西文化の日」を実施するとともに、関西の歴史文化を家族で体験できるイベントを開催するなど、関西が有する多彩で魅力ある文化に触れていただく機会の創出に努めてまいります。

（広域スポーツの振興）

第３は、広域スポーツの振興です。
開会式まで176日と近づいた「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の成功に向け、さらなる大会機運の醸成と競技への参加促進に向けた取組を進めております。
大会の認知度向上を図るため、多くの参加者が見込まれるスポーツイベントにおいてＰＲ活動を行うことでスポーツファンへの周知を図るとともに、本番と同じ競技に参加できる「関西マスターズゲームズ」を関西各地で開催するなど、大会への関心の向上に努めております。
また、組織委員会会長として、同じく会長である関西経済連合会の松本会長とで、各府県・政令市の実行委員会を訪れ、意見交換を実施しております。大会に向けて各地の実行委員会との一層の連携を図るほか、大会参

加者が区間内の鉄道やバスに乗り放題となる「WMG2027JR関西ワイドエリアパス」を販売したり、円滑な大会運営を図るために各実行委員会において大会ボランティアを募集したりするなど、開催地となる関西各地の機運を高めているところです。

（広域産業の振興）

第４は、広域産業の振興です。

10月５日から７日にかけて、大阪市で開催された世界を代表するディープテックの国際イベント「グローバルスタートアップエキスポ 2026」において、「Kansai GX Co-creation Forum」と称したイベントを開催しました。関西や海外のスタートアップ企業、支援機関等によるブース出展やセッション、国際的なベンチャーキャピタル等によるパネルディスカッション、また、ネットワーキングを行い、関西が強みを有するグリーンテック領域のディープテック・スタートアップを国内外に発信しました。

また、10月７日から９日にかけては、横浜市で開催されたバイオテクノロジー分野のアジア最大級のイベント「Bio Japan 2026」に参加しました。関西広域連合の構成府県市から選出された12企業のブース出展やビジネスマッチングを支援するとともに、ヘルスケア関連の関西での取組等を紹介するセミナーを実施し、関西におけるライフサイエンス分野の強み・ポテンシャルを発信しました。

（広域医療連携の推進）

第５は、広域医療連携の推進です。

10月29日、私自身が赴き、岐阜県と「ドクターヘリ相互応援に係る基本協定」を締結いたしました。来年４月１日より、新たに滋賀県湖北地域、湖東地域及び東近江地域が「岐阜県ドクターヘリ」の相互応援運航範囲となります。これにより、滋賀県内のドクターヘリ運航体制が補完されるとともに、「京滋ドクターヘリ」の府県域を越えた運航が補強されることにより、関西広域連合管内の救急医療の更なる強化につながるものと期待しております。

引き続き、ドクターヘリによる「二重・三重のセーフティネット」の拡充に向け、近隣地域との連携強化に取り組むほか、厚生労働省の「救急医療搬送体制等のあり方に関する検討会」での議論を踏まえ、情報共有・意見交換を行うとともに、適宜、要望活動を行ってまいります。

（広域環境保全の推進）

第６は、広域環境保全の推進です。

今年度から実施している外来生物対策の取組として、10月６日に大阪府堺市において、構成府県市担当者等を集めたクビアカツヤカミキリ研修会を開催しました。こうした取組を通じて、広域的な知見の共有を図り、効果的な防除に努めてまいります。

また、「関西の活かしたい自然エリアの保全・活用」の一環で、10月24日に、自然の恵みの重要性や自然と人の営み等について理解を深めることを目的として、旅行会社やNPO法人関係者などを対象に、兵庫県相生市の相生湾周辺でスタディツアーを実施しました。引き続き、自然エリアの一層の活用と発信を通じて、生物多様性の保全を図ってまいります。

（持続可能な関西の実現）

第７は、持続可能な関西の実現です。

脱炭素社会の実現に向けた機運醸成を図るため、11月と12月を、関西全体の脱炭素に関する取組の推進期間「KANSAI脱炭素months」として展開しています。期間中のメインイベントとして、11月６日、「関西脱炭素フォーラム2026」を開催し、事業者や団体など多様な主体間の連携の創出に努めました。

また、11月28日には、大阪・関西万博のレガシーを継承すべく、脱炭素行動変容の促進を目的として「関西ゼロカーボン・アクションフェス」を大阪市で開催します。

さらに、12月10日には、カーボンニュートラルに資する技術をテーマに、「カーボンニュートラル先進技術フォーラム」を大阪市で開催します。大学等研究機関や企業による、実用化をめざす最新の研究成果の発信に加え、マッチング機会を提供することにより、域内企業のカーボンニュートラル関連事業への参入や、各社の保有する技術の新たな展開を促進してまいります。

（関西のDX推進）

第８は、関西のDX推進です。

関西経済連合会等と連携し、令和５年度から毎年10月を関西広域でのDX推進強化月間「関西デジタル・マンス」としています。今年の期間中には、対象を教育・研究機関、自治体まで拡大した「KANSAI DX AWARD 2026」をはじめ、関西各地でオンラインを含めた多種多様なイベントやセミナーなど、官民が連携して様々な取組を展開しました。

また、去る11月11日に自治体DX推進セミナーを開催し、参加者の皆さまに、自治体DXの先進事例の共有や広域連携によるデータ利活用の可能性等について理解を深めていただきました。

引き続き、これまでの取組により得られた知見を活かしながら、官民連

携により、あらゆる分野におけるデジタル化やDX推進に取り組んでまいります。

（広域自治の推進）

第９は、広域自治の推進です。

関西広域連合の今後のあるべき姿や担うべき役割等について検討し、地方分権や自治力の強化につなげるため、９月17日に、４回目となる「新たな広域自治・行政のあり方研究会」を開催しました。今回も、私を含めた広域連合委員やアドバイザーが出席し、積極的な意見交換を行いました。

次回の第５回会議では、研究会においてこれまでの会議で出てきた意見や議論のとりまとめを行うこととしております。

（若者世代との連携推進）

第10は、若者世代との連携推進です。

関西の現状や課題について、若者世代の理解を促進するとともに、関西広域連合の取組や運営の参考とするため、第11回目となる「関西広域連合協議会・大学生等との意見交換会～関西ミライトーク～」を去る10月24日に鳥取市で開催いたしました。

予選審査を勝ち抜いた８チームから発想力豊かな政策提案がなされるとともに、私も平井鳥取県知事とともに審査委員として参加し、活発な意見を交わしてまいりました。

（提出議案の説明）

これより、提出した議案について説明します。

第13号議案は、「令和８年度関西広域連合一般会計補正予算（第３号）の件」です。歳入歳出それぞれ645千円を追加し、歳入歳出予算の総額を33億3,390万３千円といたします。この度の補正予算は、令和８年熊本地震発生に伴い、関西広域連合として実施した大規模災害時の被災地支援にかかる予算について補正を行うものです。

（おわりに）

本日は、この第13号議案のほか、令和８年８月定例会提出の第11号議案「令和７年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件」をご審議いただきます。

議員の皆様におかれましては、ご審議をよろしくお願いします。